

平成29年度 一相生市立図書館一

図書館だより (2月号)



〒678-0053

相生市那波南本町11番1号

電話 0791-23-5151

FAX 0791-22-7164

電子メール info@aioi-city-lib.com

<図書館カレンダー> ■ は、休館日。祝日も開館しています。開館時間 10:00~19:00

(2月)

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	*	*	*

(3月)

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

<2月の行事案内> ♪♪♪みんなおいでよ『子ども劇場』♪♪♪

日時	行事内容	場所
4日(日) 11:00~	人形劇 『赤ずきん』 グループ みっくすじゅうす	3階 しようかく室
25日(日) 11:00~	おはなし会 えほん 『せきたんやのくまさん』ほか おはなし 『たからさがし』ほか	3階 えほんのへや (大人も入れます。) おはなしのへや (4才以上対象。大人は入れません。) ☆遅れた人は参加できません。

<2階 思索の広場コーナー>

●特集:『史伝健康長寿の知恵』1~5巻 第一法規出版刊

希望があれば貸出しますので、1階カウンターで貸出し手続きをお願いします。

<読書会だより> ※2月の読書会の開催はありません。

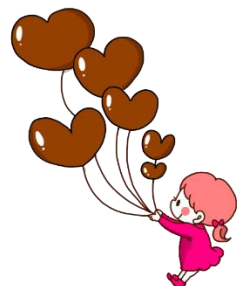
3月の読書会のご案内と、課題図書をお知らせします。

★日時…3月10日(土) 10:30~12:00

★場所…3階 視聴覚室

課題図書は、池澤 夏樹/著の『スティル・ライフ』(中公文庫)です。

★読書会はどなたでも参加でき、当日参加も可能です。課題図書は事前に読んでおいてください。





おすすめ本(児童書)



<対象*4才~>

『いっすんぼうし』

いしい ももこ ぶん

あきの ふく え

[P-イ]

福音館書店



むかしあるところに、こどものないおじいさんとおばあさんがいました。それをさびしく思っていた二人は、てのゆびほどのちいさいこどもでもいたらよかろうと話し合い、おてんとうさまに、こどもをさずけてくれるようお願いしました。すると願いが叶いおやゆびくらいの小さな男の子が生まれ、いっすんぼうしと名づけられ大事にそだてられました。ところがいっすんぼうしは、7才になっても13才になっても、ちっとも体は大きくなり、むらのこどもたちもばかにするようになり、そこで、いっすんぼうしは、都へのぼってひとはたらきしようと、おじいさん、おばあさんにいとまを願い、おわんのふねに、針の刀を持って川をさかのぼり都を目指すのですが・・・。

みんなが知っているいっすんぼうしを、石井桃子の文と、日本画家として数々の作品が世に認められた秋野不矩のコンビで描き、子どもたちを昔話の世界にいざないます。

<対象*小学校中学年~> 『白鳥』

アンデルセン 作 マーシャ・ブラウン 画

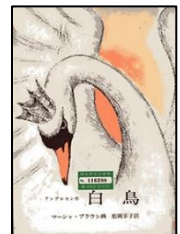
松岡享子 訳

[94-ア]

福音館書店

ある国の王さまに、11人の王子と1人のエリザというお姫さまがいました。王子たちは、何不自由なく暮らしていましたが、王さまが意地悪なおきさきと結婚した時から彼らの運命が変わります。意地悪なおきさきは、幼い末娘のエリザを遠い田舎の百姓家に預け、呪いの言葉をかけられた王子たちは11羽の白鳥になりどこかへ飛んで行ってしまいました。さて15歳になり城に呼び戻されたエリザの美しい姿をみたおきさきは、エリザにも呪いをかけようとしませんが、純真で善良なエリザには魔法はかかりません。そこでおきさきが、エリザの姿を汚くして誰かわからないようにすると、王さまは、自分の娘だと見抜けずエリザを城から追い出してしまいました。どこにも行くあてのないエリザが大きな森にたどり着くと・・・。

ドイツの昔話をもとにしたおはなしですが、アンデルセンの豊かな想像力で肉付けされた美しい自然描写や、登場人物それぞれの思いなどが、マーシャ・ブラウンの美しい挿絵と相俟って、読み手をぐいぐい引き付けます。



<対象*小学校高学年~> 『長い冬』

ローラ・インガルス・ワイルダー 作

谷口由美子 訳

[93-ワ]

岩波書店

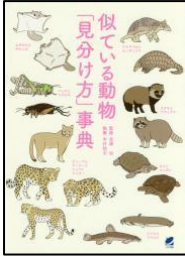


北米の大草原の小さな町に住むインガルス一家。新しい土地をもとめて開拓を続けてきた一家もやっと定住生活を営もうとしていました。さて、一家が干し草刈りに精を出していた9月下旬のとても暑い日。翌日干し草刈りの続きをしようとしたが、急に天気が変わり、三日三晩雨が続きあと霜が降りて外は、一面真っ白になりました。そのあともまだ10月だというのに猛吹雪になるなど不安定な天候が続きます。そしてある日の午後、大変年を取ったインディアンが町の人たちに警告にやってきました。それは、この先何カ月もの間雪がたくさん降り積もり、厳しい冬が続くというものでした。人々は、その警告をそれほど深刻にはとらえなかったのですが・・・。

想像を絶する長く厳しい冬を生き抜くために知恵をしぼり行動する人々の姿が臨場感あふれる筆致で鮮やかに描きだされます。作者の実体験をもとに、少女ローラを主人公として書かれた『大草原の小さな家』シリーズの一冊です。



おすすめ本(一般書)



●『似ている動物「見分け方」事典』

木村悦子・執筆／北澤功・監修／ベレ出版／481

ハムスターとモルモット、ムササビとモモンガ、アシカとアザラシ…。知っているが、違いのわからない似た者同士の生き物 80 種を取り上げ、主に見た目で見分けるポイントを、イラスト満載のチャートとともに解説する。

●『ラーメンを科学する』 川口友万・著／カンゼン／596

世界で5番目の新たな味覚「うま味」とはどんな味なのか？おいしい「だし」「麺」はいかにして生まれるのか？ラーメンにまつわる様々な「なぜ？」を、科学の力で徹底説明する。

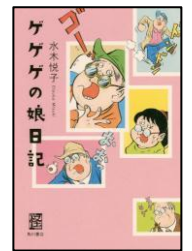


●『千年の田んぼ』 石井里津子・著／旬報社／616

秘境の離島に日本最古の田んぼ？いったい誰が？なんのために？日本海の荒波の向こうに浮かぶ島、山口県萩市見島に刻まれた“奇跡の風景”の謎を解く。

●『ゲゲゲの娘日記』 水木悦子・著／KADOKAWA／726—ミ

「ゲゲゲの鬼太郎」など、数々の人気漫画を生み出した人気漫画家・水木しげる。娘としてずっと側で見続けてきた次女・悦子が、家族だけが知るおちゃめな素顔や父としての姿を生き生きとつづる。

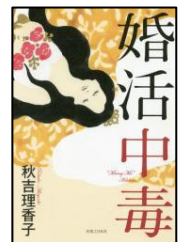


●『漱石を知っていますか』 阿刀田高・著／新潮社／910—ナ

はっきり言って、小説は上手くない。じゃあ、なにが凄かったのか？実作者の目から創作技法・文章術・作家心理をやさしく解説。主要13作の読みどころもわかる、漱石文学の超入門書。

●『婚活中毒』 秋吉理香子・著／実業之日本社／F—ア

崖っぷち女が紹介された運命の相手は連続殺人犯？「理想の男」をはじめ、息子の見合いで相手の母親に恋心を抱いた父親を描いた「代理婚活」など、全4編の“婚活”ミステリーを収録。



●『架空の犬と嘘をつく猫』 寺地はるな・著／中央公論新社／F—テ

羽猫家は6人家族。変なのは名字だけでなく、それぞれがちょっと変わった嘘をつくこと。羽猫家の長男の山吹が大人になり、みんなの＜嘘＞が解かれたとき、本当の家族の姿が見えてくる。嘘をつき続けた家族の素敵な物語。

一般書<新着図書>

書名	著者	出版社	請求記号
報道しない自由	西村 幸祐	イースト・プレス	070
超老人の壁	養老 孟司・南 伸坊	毎日新聞出版	367
チーズ☆マジック	小野 孝予	清流出版	596
楽天家は運を呼ぶ	高橋 三千綱	岩波書店	914-タ
俺はエージェント	大沢 在昌	小学館	F-オ

一般書<1月分 最多貸出図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
5	ウズタマ	額賀 滯	小学館	F-又
5	蜜蜂と遠雷	恩田 陸	幻冬舎	F-オ
4	福袋	朝井 まかて	講談社	F-ア
4	ノーマンズランド	誉田 哲也	光文社	F-ホ

一般書<1月分 予約の多い図書>

予約件数	書名	著者名	出版社	請求記号
13	おらおらでひとりいぐも	若竹 千佐子	河出書房新社	F-ワ
7	天翔ける	葉室 麟	KADOKAWA	F-ハ
7	銀河鉄道の父	門井 慶喜	講談社	F-カ
7	生きていくあなたへ	日野原 重明	幻冬舎	159

児童書<1月分 最多貸出図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
8	てぶくろ	—	福音館書店	P
6	こぐまちゃんとどうぶつえん	わかやま けん	こぐま社	P-ワ
5	わんぱくだんのおかしなおかしや	ゆきの ゆみこ 上野 与志	ひさかたチャイルド	P
5	からすのパンやさん	かこ さとし	偕成社	P-カ

※児童書の新着図書は、別紙『平成30年1月新着図書』をご覧ください。



お一人、貸出できる冊数は10冊、貸出期間は2週間です。返却期限をお守りください。延長は1回のみ2週間延長できます。ホームページ・電話で受け付けています。
 ※貸出日の翌日以降から延長できます。予約が入っている本・返却期限をすぎている本の延長はできません。



【ライブラリアン・レター】

寒さのために更に着物を重ねて着ることから「衣更着（きぬさらにき）」＝如月」になったという説があるそうです。2月4日の立春を迎えると、暦の上ではもう春ですが、まだまだ寒い日は続きそうですね。初春とはいえ、如月という名が付いたことに納得です。

（参考資料：『暦のはなし十二月』内田正男・著／雄山閣／449）